

音楽科の見方・考え方を働かせた探究的音楽活動

—新しい価値創出により生徒自らが音楽の存在意義を

実感する授業を創る—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（音楽）

児玉 亜衣香

音楽科の「見方・考え方」は、音楽の存在意義や価値を自らが実感することを音楽科の本質としている。だが、現在の音楽科の授業では、既存の文化的価値観を確認しそれを実現するための知識や技能を習得することを中心として行っている。本来の音楽のよさや美しさを自ら実感するための音楽科が軽視されていると筆者は考える。果たして、現在の音楽科の授業では、音楽科の「見方・考え方」を十分に働かせることが出来ているのだろうか。筆者はそれに対し、十分でないと考えたため、音楽の存在意義や価値を生徒自らが実感する授業創りを行っていきべきだと考える。

そのために、音楽室を心理的安全性の確保できる「探究音楽的サードプレイス」と設定し、探究音楽的サードプレイスでは、事前の思いや意図にこだわることや目の前の楽譜に捉われることはせず、手探りで声を出し楽器を演奏することや主体的に音楽と向き合うことで、生徒自らが音楽に対する価値創出を行う探究的音楽活動を実施していきたいと考えた。